

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おうちだ		
○保護者評価実施期間	R7年1月13日		～ R7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	R7年1月13日		～ R7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	R6年12月15日		～ R7年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援員の専門性が高い	訪問支援員の自己努力に依存している面はあるものの、訪問支援員である職員の専門性が高く短時間の訪問においても高い評価を得ている。	職員の自己研鑽や努力に頼ることなく、研修の機会やスーパーバイズを受ける機会を計画する必要がある。
2	医療的ケアのお子さんについても、訪問先の同意が得られれば発達面において訪問支援を行うことができる。	重症児、医療的ケア児さんを対象とした児童発達支援、放課後等デイサービス事業を実施している。その為、医療的ケアを伴う発達支援を行う専門性がある。	児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業の支援を充実させ、専門性を取得していきたい。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所において他の事業も実施しており保育所等訪問支援事業を継続するための人員確保、専門性の高い職員を確保することが難しい。	保育所等訪問支援事業は、お子さんのアセスメントや支援、保護者支援だけでなく、所属園や学校の方針、担任の先生との認識合わせなど多岐にわたり調整、配慮すべき点がある。訪問支援員は社会人としてのマナーや発達障害についての高い専門性など兼ね備えていなければならない。事業所が基本的に実施している事業（重症児を対象とした児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業）においても、手厚い人員配置と支援についての専門性が必要である。	法人内の協力や保育所等訪問支援事業の難しさや課題などを、地域や行政と共有し課題解決に取り組みたい。
2	保育所等訪問支援のみで、事業所の継続的な運営を行うことは出来ない。	家庭や所属園、学校へ何度も訪問し、事前説明や支援、報告などを行っている。しかし、報酬面において妥当な報酬額に受け取ることができない。保育所等訪問支援のみで、事業を算定させて継続的に実施することは難しい。	保育所等訪問支援事業の難しさや課題などを、地域や行政と共有し課題解決に取り組みたい。
3			